

大／阪／の／建／築／まちあるき——「やお・かしわら」

やおじんじゃ
八尾神社



拝殿



ビル群に囲まれた拝殿と境内



商店街の参道



矢尾城址の石碑

所在地： 八尾市本町 7-7-27
最寄駅： 近鉄大阪線「八尾」駅
南西へ約 200 メートル 徒歩約 3 分
見学： 境内は自由
TEL： 072-993-4435

八尾神社は、延喜式内社の「栗栖神社」であるが、古くから西郷・木戸両村の氏神で明治41年(1908)に、八尾神社に改まっている。祭神は、「宇麻志麻治命(うましまじのみこと)」である。この地を本拠としていた物部氏の一族の栗栖族がその祖神を祀ったもの言われている。栗栖氏は新撰姓氏録によると、河内國の神別に「栗栖連、神饒速日命子干摩志摩治命之後也」とでている。子干摩志摩治命の子孫として、栗栖氏は物部氏の一族であったと考えられ、早くからこの地に住んでいたものと思われる。

八尾神社は、現在の近鉄大阪線「八尾」駅の南西側に位置しているが、昭和53年(1978)の八尾駅の移転(東側に約300メートル)までは、駅から約100メートルのまさに駅前の鎮守の森であった。

旧の駅前の商店街(八尾銀座)からビルに囲まれた細い裏参道があり、そこを抜けるとビル群の中に鎮座している。境内には、樹齢200年から300年の大きな棕の木と銀杏の神木があり、周辺の喧騒とかけ離れた、やすらぎの緑の空間となっている。

また、社殿の横には「矢尾城址」の碑があり、この地一帯を城町と呼び、東方に字木戸があり、八尾別当顕幸の築城と伝えられている。楠木正成の戦死後はほとんど北朝方に占拠され、延元2年(1337)10月南朝方の高木遠盛は城内に火矢を射込み、堂舎・仏閣・矢倉・役所などをことごとく焼失したが、その後も、幾多の合戦の舞台や陣地となった。戦国末には、キリシタン大名池田丹後守教正の居城となり、城下には数多くのキリシタンが住んでいたと言われている。天正11年(1583)池田教正は秀吉により美濃に移封され、城は廃城となった。

「八尾」の地名は、尾先が八枚に分かれた「鶯(うぐいす)」の名所であった事からとの伝承もあるが、「八尾」は、「矢尾」なども書かれており、物部氏の一族の矢作りに従事した「矢作部(やはぎべ)」が居住していた事から地名が起ったとも伝わっている。

(新田俊明)